



交付税の減額は町の財政に大きな打撃となります



佐々木良一郎議員

地方交付税

減額は合併しないペナルティ

合併問題とは関係ない

質問 第八次総合発展計画の素案が発表されたが、一番大事な予算が不足している。平成十九年度以降の臨時財政対策債が戻らないと地方交付税が二億八千万円減額されると予測されているが、これは合併しなかったペナルティでないか。

沼崎町長 政府は、地方交付税の財源不足対策として、平成十五年までの臨時財政対策債を認めてきたが、十八年度まで延長することになった。十九年度に廃止になれば、二億八千万円が地方交付税に戻らなければならぬ。地方交付税は三位一体の改革との関連もあり不透明だが、仮に臨時債分が戻らない場合を予測したものであり、合併問題とは関係ない。

沼崎町長 最低保有額を標準財政規模の五割以上とし、一〇割を目標とする。

質問 本町は今回の合併には時期を逸した。将来的には、合併に対して町長はどう考えているか。

沼崎町長 県では、市町村合併推進審議会を新たに設置した。本町の位置付けがどのようになるか分からないが、答申の内容により新たな議論も想定される。

町の考えを聞く



路線の延長が望まれる町道織笠外山線

建設行政

町道織笠外山線の延長

現状の財政状況では難しい

質問 町民待望の町道織笠外山線が完成し、大変喜ばれている。引き続き路線を延長し、町道織笠礼堂線に接続してほしい。

道路は直接命に係わるものである。救急車の通行な

どに支障をきたさないよう早急な整備を願う。

沼崎町長 この区間の改良整備の必要性は充分感じているが、現状の財政状況では早期に計画することは難しい。当面は交通に支障

がないよう維持補修の範囲で対処する。

質問 昨年運用を始めた山田町堆肥センターの事業経営内容は。

沼崎町長 昨年十一月から七月までの搬入実績量は、計画量の六割程度となっている。経営的には、同期間の総収入は計画に対し六割程度と搬入量に比例した数値となっている。

経営計画では黒字転換を三年後としており、現段階での赤字経営は想定内と受け止めている。